

特別支援教育・学校における 安全（防災を含む）教育 と安全管理

千葉県教育庁企画管理部教育総務課
障害者雇用推進班 主幹 村山 猛

取組状況を踏まえた検討課題（案） より

1. 計画策定後、今後改善すべき点や新たに追加すべき点
 - ・ **学校安全計画**、**危機管理マニュアル**の策定率の向上について
 - ・ **大規模な災害**が頻発する中での防災教育の充実について
2. 学校安全に係る取組の全国的な質の向上に向けた方策
 - ・ 学校安全計画の質の向上（**カリキュラム・マネジメント**の確立）について
 - ・ 学校安全に関する**指導時間**の確保について
 - ・ 安全に関する資質・能力の**評価**の在り方について
 - ・ 家庭、地域、専門性を持った**関係機関との連携**の具体策について
 - ・ 重大事故等の発生後の再発防止策について
（**学校事故対応に関する指針のあり方、事故データの活用**）
3. 学校安全に関する教員養成・教員研修の在り方
 - ・ 都道府県・市町村単位の研修の質の向上について
 - ・ 採用1年次、中核となる教職員、管理職など、キャリアステージに応じた**系統性のある研修**内容の水準や教職課程における学修内容について
4. その他
 - ・ 学校の**施設及び設備**の老朽化対策や適切な維持管理について
 - ・ **新たな危機事象**に対する安全教育・安全管理について

○第二次の文中より

- ・ 幼稚園や特別支援学校を含めた各学校種の特性に対応したもの
- ・ 特別支援学校や幼稚園を含め、児童生徒等の発達段階及び学校種の特性やつながりを踏まえたものとする

と書かれている ⇒ より具体的に示してほしい

- ・ なお 文中に 特別支援教育 特別支援学級 という単語は使われていない

参考) 「特別の教育課程」により学習をしている児童生徒数

H28 学校：139,821人（幼～高） 学級：218,127人（小、中）

通級：98,311人（小、中） **456,259人 3.0%**

R元 学校：144,434人（幼～高） 学級：278,140人（小、中）

通級：134,185人（小、中、**高**） ○**556,759人 3.76%**

全体 15,121,185 - 14,813,180 = ▲308,005

交通安全

○スクールバス停に車が… 下校途中の児童に車が…

・スクールバス停狙いの不審者

例えば バスの介助員がホイッスル等を所持し 訓練をしているか

○特別支援学校 学習指導要領 自立活動 第7章

自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱い

(最初の学習事例 P128)

「学校近辺の安全な道路における白杖を用いた歩行指導」

『将来、一人で登下校ができるようになりたい』

心理的な安定 (段階的に学習)

環境の把握 (音の聞き分け)

身体の動き (白杖の操作)

⇒ 安全に訓練できる道路環境を目指す

▲教科での学習の割合が低い

例) 知的障害 生活科の教科として学習しているか

イ安全 危険防止 (生活安全) 交通安全 避難訓練 防災

合わせた指導の中に 組み入れているか

生活安全

- 高等部でAEDの使用について学習している学校は多い
保健教育であったり 防災の授業であったり
自力通学生徒対象であったり 部活動であったり
学校の実情に応じて 様々な場面で取り組んでいる
- ・小中学部でAEDは使えなくても大切さを知ること（設置場所→+消火器等）
大事なものと分かり 有事に伝えられる学習を行う
視点が加われば もっと広がるはず
- 防犯の学習 生活安全「助けての学習」

自立活動の
コミュニケーション
通級指導教室（ことば
の教室）
高等学校の
通級にも

生徒指導（特別活動）や道徳「受援力の学習」
※SNS等、新たな危機事象にもつながる
体調の変化を伝えられる ※熱中症の事故防止
車にぶつかり 運転手に「大丈夫？」と聞かれて
おうむ返しで 「大丈夫」と言ってしわまないように…
卒業後（在学中） 金銭をたかられたり
性犯罪にまきこまれることも多い

生きる力をはぐくむ防災教育の展開 H25.3

第5章 学校における防災教育の展開例

P159～特別支援学校

両方の役割を行うことで
(倒れている人の状態・気持ちが分かる)
我が事意識が生まれる

4 役割演技をする。

◇設定 下校途中に見つけた
「倒れている人」「通りすがりの人」

- ・代表者二名が発表する。
- ・感想を聞く。



5 教職員のまとめを聞く。

◇今まで教わっていないことに遭遇した時や(火山や竜巻、ゲリラ雷雨)、既成概念にとらわれないで行動しなければならない時(横断歩道青なら渡ってOKか)について、事例を交えて話をする。

特別支援学校展開例9 (知的障害)

災害時の「ほうれんそう」～緊急時のコミュニケーション～

1 教科等名

自立活動 (高等部 通学時にスクールバスを利用していない生徒)

【自立活動 内容 (4) 環境の把握】

2 ねらい

- (1) 災害時に自分の身を守るために必要なことを考えさせる。
- (2) 自分の言葉や表現で、意見を発表することができるようにする。
- (3) 他者の気持ちを知ることができるようにする。

3 指導計画

(2時間 展開例2/2)

- (1) 釜石東中学校の生徒による
体験発表のビデオ鑑賞 (1時間)
- (2) 災害時の「ほうれんそう」(1時間)



- ワーキンググループ 防災教育チーム提言 より
「釜石小学校の例から 障害がある友達をおんぶして走って避難した子ども…」
 - ・他にも リヤカーを使って避難訓練をしている取り組みがある
 - ・大規模災害が起こる前に… 避難のマニュアルに「支援が必要な児童生徒のことを加える」 ことが あたりまえになってほしい
- 釜石東中学校の卒業生へのヒアリングと
東金特別支援学校卒業生のヒアリングの内容は 共通点が多かった
 - ・創ったことや伝えたこと 津波てんでんこレンジャー あたりまえ防災
 - ・体験を通じた地域とのかかわり 安否札 長寿会との交流
 - ・教師の姿勢 が残っていた参考) あたりまえ防災 あたりまえ体操 (COWCOW) の替え歌
高等部の生徒と 東北を訪問した経験を (津波のにおい…)
東北に防災の歌と踊りで返す取組み (河北新報に記事が掲載)
長寿会との交流では 座って行えるバージョンを生徒会が考えた
- ・こういったことも 評価につながるのでは

安全管理

- 基礎的環境整備として 適切な安全防災対策ができているか
例：不審者対応（附属池田小事件や相模原障害者施設殺傷事件）
行方不明防止 警備員の配置や寄宿舎の防犯カメラの設置等
例：スクールバスのドライブレコーダーや無線GPSの標準化
参考）和歌山県立みくまの支援学校の沿岸部を走るスクールバスの安全対策
- 医療的ケア児支援法が成立したが（R3.6）看護師が配置されれば
通常の学校に医療的ケアの児童生徒も増える
- 特別支援学校では 医療的ケア児のカニューレが外れた 人工呼吸器が
壊れた てんかん発作時 誤嚥の対応等について 緊急対応訓練を
行なっている学校が多い（全校ではない）
- そういった取り組みは 保健領域かもしれないが 生活安全という視点から
漏れがないように取り組んでもよいのではないか
イメージ例）生活安全×保健教育のクロスカリキュラム

組織活動・連携

○特別支援学校には 多様な会計年度任用職員がいたり 専門職の支援が必要な場合がある

- ・大規模災害時の勤務・支援体制のシミュレーションも必要ではないだろうか 学校だけではなく行政を交えた（行政の壁を越えた）取組も必要になる
- ・熊本地震では 手話ができる心理士が少なく 他県に協力を得た 都道府県をまたいだ専門家の協力体制も必要となる

参考）三重県では 特別支援学校防災機能強化検討委員会というものを行い 課題を共有している

○現在、特別支援学校の設置基準の制定（案）が議論されている

- ・教室不足の解消に加えて 移転や改築をする際には
- ・大川小津波被害の教訓を生かすとともに
- ・特別支援学校が避難所になる場合は 福祉避難所の確保・運営ガイドラインの改定（R3.5）に沿った対応もしてほしい
- ・また 医療的ケア児のために 避難所は 電源の確保は最低限の備えとしてほしい
- ・避難所では 視覚、聴覚障害者への情報保障の視点も忘れないでほしい
- ・特別支援学校設置基準 福祉避難所ガイドライン 医療的ケア総合支援法 の3つは 別々なものではなく 例えばコミュニティ・スクールのテーマとなり 命を守るための総合的な取組みになってほしい

例えば 第二次の計画の

5. 家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進

(1) 家庭、地域との連携・協働の推進

(2) 関係機関との連携による安全対策の推進 について

○具体的に福祉のことを加えていく必要はないか

- ・ 阪神淡路大震災以後 災害時の障害者等の避難における課題が解決されているとは言えない

追記例) ・ 「警戒レベル3 高齢者等避難」について触れ

- ・ 地域に在籍している障害がある児童生徒との協働による避難訓練等により…

⇒ 地域の特別支援学校在籍者（副次的な籍）の把握になり

⇒ 一人も取り残さない 地域防災計画や地区防災計画 へもつながる

参考) ワーキンググループ 防災教育チーム提言 より

- ・ 中学校に立ち上げられた防災委員会の生徒が、地域の要配慮者宅を個別に訪問し、防災意識を調査した。身体に障害のある方や精神面から避難訓練への参加が厳しい、あるいは拒否している住民がいることが分かり…

素早い正確な
安否確認

要援護者名簿
登録や
個別支援計画

手上げ
方式では…

- 現在示されている 特別支援学校における学校安全計画の例
 （「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育の付録（知的 高等部））は
 改訂により具体的にはなかったが
 実態に合っていない学校も多い ⇒ 先の三重県のような取組みで共有・作成を
- 学校安全計画（危機管理マニュアル）の中に
 - ・特別支援学級等 支援が必要な児童生徒の学習や配慮について書かれているか
 - ・また 特別の教育課程を編成する際に 将来の安全な生活を見据えた学習を入れているか（登下校中の事件や事故、SNS等）
 - ・小中学校の特別支援学級や通級指導において学習したことが
 特別支援学校の高等部で生かされることも多い

「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育

学校安全計画例（特別支援学校（知的障害）高等部）

項目	4	5	6	7・8	9
月の重点	通学路の安全を確認しよう	交通安全に気を付けて通学しよう	プールでの事故に気を付けよう	夏休みを安全に過ごそう	交通安全について確認しよう
教科	保健体育	体育施設・用具の安全な使用	体力テスト用具の点検と使い方	プールにおける安全、救急法講習、心肺蘇生法、危険な動物・植物に近づかない	ソフトボール、キックベースボール等の球技指導における安全
	理科	ガラス製の実験器具、火気利用時、薬品等の注意（例）フラスコ、ビーカー、バーナー、凸レンズ、針金等の実験器具等の安全な使い方			
	美術	美術で使用するハサミやカッター、ナイフ、彫刻刀、木槌、土練機などの道具の安全な使い方・竹ひご、銅板、			
	家庭	調理で使用するガスコンロなどの安全な使い方・ミキサー、電子レンジ、ホットプレートなどの電気製品の安全な使い方・針やはさみなどの道具の安全な使い方			
安	職業	木工班…ドリルやベルトグラインダーなどの電動工具の安全な使い方・のこぎりなどの工具の使い方・塗料の使い 園芸班…鍬や移植鍬、鎌などの道具の安全な使い方・土師を使った安全な土のふるい方・野菜や花など育てる上 接客班…実際の接客に必要なコミュニケーション能力の育成・トレイの持ち方、グラスの運び方、テーブルへの置き方 事務班…印刷機、シュレッダーなどの事務用機器の安全な使い方・ハサミやカッターなどの道具の安全な使い方			

学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン（R3.6）の「事後の危機管理」
 「教育活動の継続」⇒「応急教育計画の作成（解説編－75）」⇒サンプル編（84－87）に具体例
 ⇒要配慮者がいる学校でどれくらい作られているか
 参考）感染症や自然災害の脅威が増していることから、介護事業者は業務継続計画（いわゆるBCP）の作成がR6より義務化される。同様に、障害福祉サービス等事業者も、業務継続に向けた計画策定、研修や訓練の実施等が義務付けられる。

学校事故検索データベースの活用例

令和元年度 特別支援学校 死亡事故 9件（抜粋）

- 突然死 給食後 てんかん発作
- 窒息死 学部集会 ベッド上
- 窒息死 社会科見学 昼食時
- 突然死 給食時 休憩時間
- 突然死 通学のバス
- 突然死 通学のバス
- 窒息死 通学のバス
- 突然死 自動車登校中
- 頭部外傷 徒歩下校時 重機が突っ込んできた



- 対応例) 活動単位ごと 系統性をもった研修を
そして ノンテクニカルスキルの研修を⇒演習テキストの作成
(連携不足の重大事故は、あってはならない)
- ・環境面から バスの介助員の複数配置

◎心のケアの引継ぎ

- ・熊本地震で 家のひび割れを見て しばらく家に入れなくなった
- ・特別支援学級の児童（トラウマ）→ 担任への助言

○個別の指導計画で 不安な気持ちを軽減する学習をし

○個別の教育支援計画に記録し 次年度へ 卒業以後に引き継ぐ

= ライフサポートファイルにも引き継ぐ

福祉と医療と教育をつなぐツール（一貫した支援）

長生郡市総合支援協議会版

ライフサポートファイル

防災のしおり

わが子の防災計画をたててみましょう!!

ライフサポートファイルにおける 緊急時・災害時の備えや支援の必要性について

阪神淡路大震災の記録を、当時の兵庫県厚狭教育諸学校長が、500ページにわたってまとめています。そこから一部引用します。

「この兵庫県に、平成7年1月17日午前5時46分、神のいたずらにより、震度7という直下型の地震が発生し、特に摂津（阪神）、淡路が壊滅的な被害にみまわれました。（中略）地震に対する災害に、よまごとのように何ら備えていなかったことは反省すべきだと思います。（中略）これが授業中であつたらどうであつたらうか。通勤通学時であれば、亡くなった人の数はもっと増えていたに違いないし、行方不明者は膨大な数になつたに違いない。大震災の悲しみを癒すことはできませんが、発生が5時46分というはせめてもの敷いであつたかも知れません。」

東日本大震災の発生は、午後2時46分で、多くの特別支援学校は下校時と重なりました。学校の授業時間は、1年間で約1000時間です。残りの約7760時間は、家庭や地域で過ごしています。すべての生活時間において、災害時の備えがされることを願います。

また、阪神淡路大震災の記録として、ある教諭先生が次のように書き残しています。

「私の知り合いの障害児とその家族は、震災で被災し、燃え盛る猛火の中を半壊した家から脱出しました。すぐ近くの小学校の避難所にいきましたが、すでに避難者でいっぱいでした。ひとつだけあった車椅子用のトイレは使用不能で、校庭の隅で用をたしました。やっと届いた配給のおむすびは、（中略）「車の中に障害の重い子どもがいる」と訴えても、「その子を連れてこい」という冷たい対応。「このままではわが子は殺される」と思った両親は、泥濘の中、車を走らせ移動を（中略）障害者や高齢者のための施設が、「今日は休館日です」という信じられない対応。（中略）避難所を探して、や

<p>にがて <small>えすおーえす</small> 苦手なこと・SOSのサイン 例) 大きな声や物音が苦手です。 後ろから突然声をかけないでください。 不安になると爪をかみます。 一度に沢山のことを言われると混乱します。</p>
<p>あんしん <small>す た もの</small> 安心グッズ、好きな食べ物など 非常時に、家庭以外にも本人が好きなものを知っておき、準備しておくことで支援に役立ちます。</p>
<p>おち <small>かつどう あそ</small> 落ち着ける活動や遊び 例) 好きな歌手のCDを聞くこと。 気持ちが不安定になった時は、静かな場所に行くことで落ち着きます。</p>
<p><small>てつた</small> できるお手伝い 例) タオルなどの洗濯物がたためます。</p>

生きる力をはぐくむ防災教育の展開 この資料の新しいものを！！ × 生活・交通安全教育

(3) 着色

(5時間)



5 学校における防災教育の展開例

4 展 開

学習内容・活動 ◇主な発問等	教職員の支援	資料・材料
<p>1 本時の学習内容を確認する。 ◇災害時の避難所をイメージ（明るい、落ちつく、安心、暖かい、好き）して作成してきたことを振り返りながら確認する。</p> <p>2 三つのグループに分かれて、制作する。 ◇グループは、「アイデアを出して、絵や言葉で表現できる生徒」「教職員の支援を受けアイデアを出し、色を塗ることができる生徒」「教職員と一緒に好きなデザインを選んで、色を塗ることができる生徒」に分ける。</p> <p>【下地塗りグループ】 ・板の全面に色を塗る。</p>	<p>○下絵の実物を見ながら説明する。</p>  <p>○塗りやすいように、生徒一人一人に合った道具を用意する。また、塗り残しがないように、重ねて塗</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵の実物見本 ・避難所の写真  <ul style="list-style-type: none"> ・パーティション（木材・プラダン） ・ローラー ・エッジャー ・シート ・マジック ・下書きシート ・アクリル絵の具 ・筆 ・刷毛

高等部
美術
防災マルチ
パーティション
高等部で作成
→小学部で活用
→有事は避難所
で活用

⇒廊下の標識
(生活安全)
⇒正門に徐行の
標識
(交通安全)

全校児童生徒集会 防災をテーマとした地域との交流

- 6 終わりの会
- ・長寿会、ボランティア部会の方から感想を聞く。
 - ・長寿会、ボランティア部会の退場。
 - ・次回予告（児童生徒会役員）
 - ・終わりの言葉（児童生徒会役員）

のが、そのように避難をしたか
どに答える（全グループから話し
を聞く）
○拍手で
○姉学

特別支援学校の生徒が
地域の長寿会の方を誘導

5 評価

- (1) お互いの名前を覚え、交流をすることができたか。
- (2) 協力して安全に避難することができたか。
- (3) 防災や安全について考える機会になったか。



6 その他

(実際に実践した学校における行動や感想)

あるグループは、廊下にいる時に緊急地震速報が流れ、その場に座り頭を守った。高等部生徒が小学部児童の頭を守りながら自分の頭を守る姿があった。あるグループでは、中学部の生徒が、「〇〇さん、ここに隠れて!」と机から椅子を引き出して長寿会の方と一緒に机の下に避難する姿が見られた。非常食の試食では、普段、お菓子を食べない小学部の児童が、皆が食べるのを見ながら自分の口へ入れた。緊急地震速報を流すことを事前に伝えておいたことで、気持ちが落ち着かなくなる児童生徒もなく、「また一緒に活動をしたい。」という感想が、児童生徒、地域の方々の双方から聞かれた。

- ・兵庫県立舞子高校の環境防災科の生徒と特別支援学校との防災交流学习で
- ・視覚障害がある生徒が 避難所でできる役割を一緒に考えた
- ・私は聞くことが得意だから…
- ・得意なことや役割の学習は避難所の生活にもつながる
- ・様々な交流の形を

○近年 防災教育チャレンジプランやぼうさい甲子園で

- ・がんばり始めた 特別支援学校の取組みが増えている
参考) 昨年度 グランプリも大賞も特別支援学校

埼玉県立日高特別支援学校では

オンラインによる防災体験プログラム の実施

- ・がんばりが 特別支援学級や通級指導にもつながり

全国に広がることで 一人も取り残さない 防災・安全教育

安全管理 組織活動 につながる

○自立活動の学習の視点から…

西日本豪雨 (H30.7) 倉敷市
聴覚障害がある児童が 寝ていた時に
「おねしょ？」と違和感に気づき
家族を起こして浸水していることが分かった

- ・ (守られるだけではなく) 水害で 屋上から避難する際に
一人で吊り上げてもらうための 過敏の解消や姿勢づくりは
5 障害や状態に関わらず どの児童生徒の学習においてもできる
主体的な防災 (安全) 教育である